

事業報告

留学生の就職先ならびに新規留学生確保を目的とした フィリピン大学ビサヤ校およびディリマン校への訪問

久保田 賢・伊谷 行・富永 明

趣旨

高知大学では、平成25年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム（以下、優先配置プログラム）」に採択され、黒潮圏総合科学専攻が主体となり「黒潮圏の持続型社会形成を目指す人材育成プログラム」を実施している。本事業では、5ヶ年度にわたり毎年3名のフィリピン人留学生を受け入れ、フィリピンや台湾のような黒潮圏を中心とする諸地域の沿岸域における資源の持続的な管理と利用を担う人材を育成することを目指している。この事業を通じて、実施期間中のフィールド研究の推進のみならず、留学生の帰国後も共同研究が継続できる体制構築が期待される。その実現のために、学位取得後の就職先と能力が高く意欲的なプログラム参加希望留学生の確保が求められる。そこで、フィリピン大学ビサヤ校およびディリマン校へ訪問し（図1）、本専攻やプログラムの理念や研究内容の一部を紹介した。

訪問先、日程および実施内容

【平成27年10月25日（月）】

フィリピン中部のPanay島南西部に位置するフィリピン大学ビサヤ校へ訪問し、Wilfredo Campos教授（College of Arts and Sciences）より、キャンパス

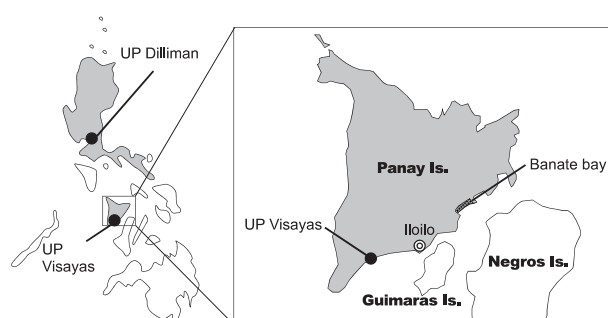


図1 本事業の訪問地

の案内や教育研究に関する概略の説明を受けた。また、以下の題目でセミナーを行なった（図2）。

1. Effects of edible algae cultivated by deep ocean water on diabetes and allergy (富永明)
2. Ecology of ecosystem engineering shrimps in tidal flats with special emphasis on their commensals and parasites (伊谷行)
3. Analysis of stony coral with advanced life science technologies (久保田)

また、セミナーに先立ち、文理融合を目指した「黒潮圏科学」研究の必要性とその経緯について紹介するとともに、優先配置プログラムの概略とその応募



図2 フィリピン大学ビサヤ校でのセミナー風景

留学生の就職先ならびに新規留学生確保を目的としたフィリピン大学ピサヤ校およびディリマン校への訪問

に関する説明を行なった。セミナーへは、教員、修士課程の学生および学部生を合わせて約20名が出席し、日比両国の生活習慣病の実態、干潟での生物観察法や有藻性サンゴの白化からの回復法の解析方法など、多様かつ有益な質疑が繰り上げられた。

セミナー後、優先配置プログラムへの参加に興味を持った計4名の修士取得者または取得予定者に対するヒアリングを行なった。セミナーやその質疑応答では十分理解できなかった内容の確認、修士論文や現在取り組んでいる研究内容や今後の課題の私たちへの説明、博士課程および修了後に希望する研究内容などについて各20分程度で聞き取りした。

【平成27年10月26日（火）】

セミナー翌日は、フィリピン中部のPanay島南東部に位置するBanate湾を視察した（図3）。Wilfredo Campos教授および研究室のDonna Guarte研究員お



よびLiesel Paraboles研究員の案内で、干潮時刻である14時から16時頃に合わせてIloilo市街より北東へ約50kmに位置するこの干潟へ車で向かった。海岸は開放型で、潮が引き始めるとみるみる広大な砂浜干潟が出現した。生物相は十分に調査されていないとのことで、日本から持ち込んだヤビーポンプを用いて、巣穴を作る生物の採集を行った。ヤビーポンプとは、釣餌に用いるスナモグリ類を巣穴から引き出すための道具で、オーストラリアなどで市販されているものである（図3右）。その結果、2種のシャコ類、ミナミコメツキガニ類、マクラガイ類、ミドリシャミセンガイ類等が採集されたが、いずれも日本で目にする種とは異なる様子であった。実際にフィールドワークを共にすることにより、研究員たちの熱心さ、学位取得への関心の深さ、就職問題など、昨日よりも多くの情報交換をすることができたのが、何よりの成果であっただろう。



図3 Panay島Banate湾の広大な干潟と採取風景

【平成27年10月27日（水）】

マニラ首都圏東部部のケソン市に位置するフィリピン大学ディリマン校へ訪問し、Ian Kendrick Fontanilla副学部長（生物学研究所）の案内により、Jose Balmaceda 理学部長を表敬訪問した。また、海洋科学研究所のMarie Antonette研究所長と面会し、すでに優先配置プログラムで黒潮圏総合科学専攻へ留学している元研究員の近況を伝えとともに、更なる候補者の選定への協力を依頼した。研究所長からは、優先配置プログラムへの参加にとどまらず、共同研究の推進等で本専攻との継続的な連携体制を構築していくことが重要であるとの見解が示され、その調査拠点としてディリマン校から北北西約280 kmに位置する海洋研究所附属Bolinao海洋研究ス

テーションについて紹介された。

【平成27年10月28日（木）】

再びフィリピン大学ディリマン校を訪問し、以下の題目でセミナーを行なった（図4）。

1. Effects of edible algae cultivated by deep ocean water on diabetes and allergy（富永明）
2. Ecology of ecosystem engineering shrimps in tidal flats with special emphasis on their commensals and parasites（伊谷行）
3. Analysis of stony coral with advanced life science technologies（久保田）



図4 フィリピン大学ディリマン校でのセミナー風景

富永の講演の中で、文理融合を目指した「黒潮圏科学」研究の必要性とその経緯について紹介した。セミナーは講義の一コマを空けて設定されていたことから、質疑応答の時間が十分取れない問題はあったものの、教員、研究員、大学院生および学部生を合わせて50名を超える参加者が得られた。時間が限られていたことから、講演内容に関する質問や優先配置プログラムの概略とその応募に関する説明は別室で行なった（図5）。約20名の教員や学生が出席し、マウスや培養細胞を用いたアレルギー抑制活性の測定方法、アナジャコ類の巣穴の形状を再現するために使用する樹脂の種類や有藻性サンゴタンパク質の抽出法など、かなり具体的な研究手法に関する質問を受けた。

訪問に先立ち、Ian Kendrich副学部長へは優先配置プログラムの紹介やマッチングを目的としていることを伝えていたことから、生物学研究所や海洋科学研究所の教員、研究員や大学院生にとどまらず、500 km近く離れたビコル大学からも本学への留学に関する情報収集に訪れていた。数名の教員や研究員と面談し、優先配置プログラムへの応募について情報交換を行なった。

国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの推進

優先配置プログラムの開始から1年余りが経過し、第2期の学生を受け入れるに至っている。本プログラムの推進を足掛かりにして、各留学生の帰国後も継続的な連携体制の構築が実現できるよう、交流協定のない大学や研究機関も視野に入れ、フィリピン全土の有能な候補者の発掘が必要であると感じ



図5 フィリピン大学ディリマン校でのセミナー後の質疑応答

ている。

謝辞：平成27年度研究科長裁量経費「留学生獲得のためのセミナー開催」、平成27年度大学改革促進経費・教育改革「卒業生の就職先訪問」の経費による。